

南山大学 経営学部 情報管理学科

「南山大学は昭和24年に創立されたカソリック系の大学である。その経営母体は神言会という修道会であり、したがってキリスト教精神が建学の大きな柱になっている」というよりも、テレビ化もされた、曾野綾子の小説「太郎」シリーズの舞台となった大学というほうが有名であろうか。

太郎の在籍した人類学科は南山大学の目玉学科の1つであるが、それと並んで、南山大学の新たな花形学科となるべく登場したのがわれわれの情報管理学科である。

情報管理学科は、それまで経営学部経営学科や経済学部在籍して、統計学、オペレーションズ・リサーチ、計算機科学を研究・教育していたスタッフに、新たに外部からの若手の研究者も加えて、経営学部の一学科として昭和61年4月に設立された。

図1は情報管理学科の研究・教育理念を図式化したものである。語学力と恵まれた計算機環境を道具として、情報科学、経営システム、OR、統計学の研究・教育を相互に関連を保ちながら、進めていこうというわけである。OR・統計の豆がさやから飛び出しているのは、OR・統計の研究には計算機はいらぬ、という意味ではなくて、OR・統計は学問分野として他の2つより古い歴史をもつので、豆は熟して今まさに芽を出そうとして

いるのだそうだ。

この教育理念を実現させるべきスタッフは、以下にあげる11名である。このうち、OR学会の会員は、飯原、古瀬、沢木、鈴木の4名である。

- 教授 飯原 慶雄 (経営財務論)
 伊藤 孝一 (統計学)
 古瀬 大六 (経営システム論)
 沢木 勝茂 (オペレーションズ・リサーチ)
 春藤 修二 (数学)
 山田 進 (システム監査)
- 助教授 木村 美善 (経営統計学)
 村本 正生 (情報処理論)
- 講師 後藤 邦夫 (通信システム)
 野呂 昌満 (情報処理)
 鈴木 敦夫 (システム設計論)

現在、情報管理学科には1年生105名が在籍している。上で説明した研究・教育理念を実現すべき設備、環境も未整備な面が多いが、4年生までの学生がそろそろ昭和64年度までには、それらの点を解決し、情報化が進む社会に有用な人材を送り出すことができるよう、スタッフは全力をあげている。 (鈴木敦夫)

●情報管理学科の主な研究分野

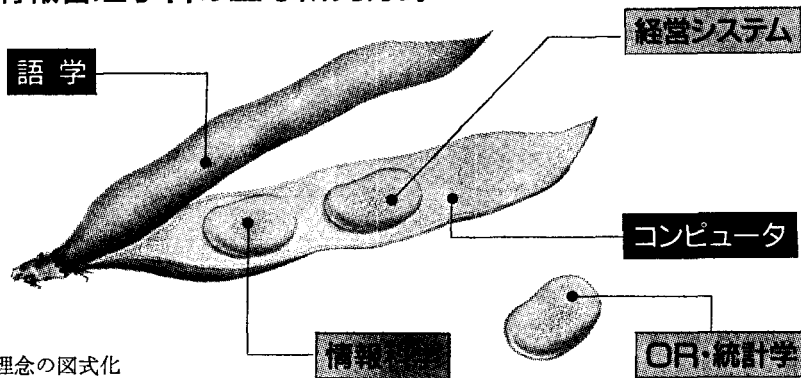


図1 研究・教育理念の図式化